2017 年 4 月改訂(第 6 版(新記載要領に基づく改訂))
*2013 年 1 月改訂（第 5 版）
承認番号：21700BZY00269000

医療用品（4）整形用品
高度管理医療機器　靭帯固定具　（JMDN コード：36174003）

マイクロ　クイックアンカー　プラス

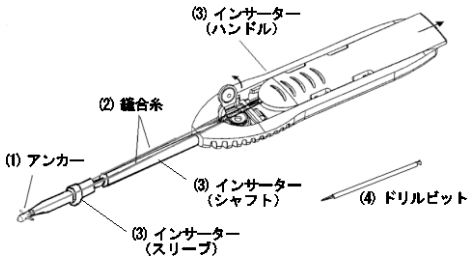
再使用禁止

【警告】
1. 本品は皮質骨下の海綿骨に固定されるようデザインされているので、アンカーを挿入する母床となる骨に必要かつ十分な厚みがあるか確認すること。〔術中、術後にアンカーが脱転する恐れがある。〕
2. アンカーや縫合糸に過度の負荷がかかるような過剰な力を加えないこと。〔アンカーや縫合糸が損傷し、修復に必要な固定力を得られない恐れがある。〕

【禁忌・禁止】
〈使用方法〉
1. 再使用禁止・再滅菌禁止
〈適用対象(患者)〉
1. 粉砕骨折表面へは使用しないこと。[アンカーの固定を妨げる恐れがある。]
2. 患者が以下の状態にある場合は使用しないこと。
(1) 骨に嚢胞性変化や重度のオステオペニア（骨減少症）などの病的状態。[アンカーの固定を妨げる恐れがある。]
(2) 骨に付着させる軟部組織が病的状態。[縫合糸による固定を損なう可能性がある。]
(3) 血流の不足や感染症などで治癒が遅延された身体的状態の場合。[アンカーを十分支持できない可能性がある。]
3. 人工靭帯の接合には使用しないこと。[十分な固定を得られない恐れがある。]
4. 本品に感作又は金属アレルギーのある患者には使用しないこと。[アレルギー反応や過敏症を起こす恐れがある。]

【形状・構造及び原理等】
1. 概要
手指部又は頭蓋部の軟部組織又は靭帯を骨に固定するためのアンカーである。

2. 外観



※縫合糸に取り付けられた針はインサーター内に収納されている。

3. 直接もしくは薬液等を介して体内に接触する部分の原材料
(1) アンカー
1) アンカーベース：チタン合金
2) アンカーアーク：ニチノール
(2) 縫合糸（号数：3-0 号、4-0 号）
1) 糸：ポリエステル（ポリエチレンテレフタレート）、ポリブチレート
2) 針：ステンレス鋼（ニッケル、クロムを含む）
(3) インサーター
1) シャフト：ステンレス鋼（ニッケル、クロムを含む）
2) スリーブ：ポリカーボネート
(4) ドリルビット：ステンレス鋼（ニッケル、クロムを含む）

【使用目的又は効果】
手指部又は頭蓋部の軟部組織又は靭帯を骨に固定するために用いる。

【使用方法等】
1. アンカー挿入前に専用のドリルビットで骨孔を作成する。
2. インサーターの先端にアンカーが正しく固定されていることを確認する。
3. インサーターを骨孔に垂直にあてがい（図 1）スリーブがシャフトのストッパーで止まるまで上部から押してアンカーを挿入する。（図 2）
4. インサーターのスライドカバーを全開し、インサーター内の縫合糸、縫合針を外に出す。
5. インサーターの先端を骨孔から抜き、アンカーが正しく骨孔内に留置されたことを確認する。
6. 縫合糸両端を把持し、上方に軽くテンションをかけ、骨孔内にアンカーを固定していることを確認する。縫合針と縫合糸で組織を縫合・結紮する。縫合針及び余分な縫合糸を切断する。

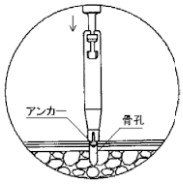


図 1

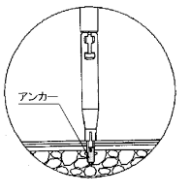


図 2

【使用上の注意】
1.使用注意(次の患者には慎重に適用すること)
(1) 高齢、精神障害、アルコール中毒、薬物中毒などで患者の治癒能力が抑制される場合。[治癒期間の長期化を招く可能性がある。]
(2) ステロイド療法、化学療法等を受けており手術部位付近の組織が健康な状態でない場合。[治癒が遅れる可能性がある。]

2. 重要な基本的注意
(1) 推奨骨孔サイズは直径 1.3mm、深さ 5.0mm である。
(2) 骨孔作成時は回転するドリルから周辺軟部組織を保護し、ドリルの軸がぶれないように注意すること。〔ドリルの先端が破損する恐れがある。〕
(3) 孔の適切な角度を決める際は、骨の厚みを考慮すること。必要に応じて、骨孔の角度を縫合する腱や靭帯に対して 135°の角度を作ること。
(4) 残留した骨の破片はアンカーの正しい設置や固定を妨げることがあるため、骨孔を作成した部位から除去すること。
(5) アンカーを骨孔内へ挿入する際は、過剰な力を加えないこと。また、縫合糸が損傷しないよう、骨表面に縫合糸が接触する可能性がある場合、骨表面を滑らかにして縫合糸の損傷を避けるよう処置を加えること。

(6) 最適な固定強度を保持するため、アンカーは正しく挿入し固定すること。〔不十分な挿入は、アンカーが脱転する可能性がある。〕
(7) アンカー、縫合糸、インサーター先端に損傷を与える恐れがあるので、インサーターを傾けたり屈曲力を加えたりしないこと。
(8) インサーターをアンカーより抜去する際は、インサーターを傾けたり回転させたりしないこと。
(9) 付属品又は縫合糸や縫合針を把持する際は、本品が損傷しないように注意すること。特に鉗子又は持針器などの手術器具の使用による損傷を避けるよう注意を払うこと。
(10) 付属の縫合糸は軟部組織と骨とが癒合するまでの期間、軟部組織を支持するもので、無期限の強度を保持するものではないことに留意すること。
(11) 縫合糸が損傷・切断する恐れがあるので、軟部組織を縫合する際は、縫合糸に過度の力をかけないこと。
(12) 縫合針が損傷・切断する恐れがあるので、縫合針を変形させないこと。
(13) アンカーを抜去する必要が生じた場合は、縫合創部やX線写真をもとにアンカーの位置を確認し、キュレットまたはオステオトームで皮質表面を取り除いてアンカーを露出させ、ニードルホルダーや鉗子などでアンカーを把持し抜去すること。
(14) 骨および軟部組織の治癒の妨げとなるので、術後の急激なリハビリテーションは避けること。
(15) 埋植後、X線・CT・MRI画像の撮影に際して、本品により画像に対する干渉が起こる。
(16) 埋植後、MRI による磁場により本品に誘導電流が発生し、本品が発熱することにより体内に熱傷をおこす可能性がある。

3. 不具合・有害事象
［重大な有害事象］
(1) アンカー留置後の患者のアレルギー反応
(2) 創傷部の感染
(3) 異物反応による組織の炎症
(4) 汚染された針での針刺し事故による血液性疾患病原体の伝染

［重大な不具合］
(1) アンカーの脱転・破損
(2) 縫合糸の切断
(3) 縫合針の変形又は破損
(4) インサーターの破損

4. 高齢者への適用
高齢者は骨粗鬆症などにより骨が脆くなっている場合があり、十分なアンカーの固定強度が得られない可能性があるので、慎重に使用すること。

【保管方法及び有効期間等】
〈保管方法〉
1. 高温、多湿、直射日光及び水ぬれを避けて室温で保管すること。
2. 包装材料を傷つけたり、ピンホールを生じさせないように取り扱うこと。
〈有効期間〉
1. 製品の使用期限は製品の包装に表示されている。
（自己認証（当社データ）による。）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】
製造販売業者：
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
電話：03-4411-7911

＊ 製造業者：
・デピュー　マイテック社（DePuy Mitek）米国
・メドス　サール社（Medos SARL）スイス

©J&J KK